

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第255号 2018年2月13日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2018



## 国境を越えた女子教育の実践

### CONTENTS

#### TOPICS

- |  |   |
|--|---|
| 学長からのメッセージ ..... 1-2<br>すべての女性の夢の実現のために<br>～ アフガニスタン女子教育への協力 ～ | 附属学校園からのお知らせ ..... 7-8                                |
| 学生のアクティビティ ..... 3-4   | キャンパス点描 ..... 9-10                                    |
| 教員紹介 ..... 5<br>● 小松 祐子先生<br>(基幹研究院人文科学系准教授)                   | ● ノーベル化学賞受賞者 ジャン＝ピエール・ソヴァージュ教授の特別講義を開催しました            |
| 卒業生紹介 ..... 6<br>● 松嶋 美佳さん<br>(人間文化創成科学研究科理学専攻 修了)             | ● 五女子大学コンソーシアム協定を締結し、アフガニスタン女子教育支援15周年記念シンポジウムを開催しました |
|  | ● お茶の水女子大学附属中学校が創立七十周年記念式典を挙行了しました                    |



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# すべての女性の夢の実現のために

## ～ アフガニスタン女子教育への協力 ～

### 学長からのメッセージ

本学は、2002年に五つの女子大学（津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学）と共にコンソーシアムを結成して、アフガニスタンにおける女子教育の支援を開始しました。それから15年の月日が流れましたが、その間、五女子大学コンソーシアム、東京女子医大等の協力大学、JICA、文部科学省、外務省などの皆さまのご助力を得て、社会環境の変化による紆余曲折を経ながらも、様々な活動を現在につなげて来ることが出来ました。そこで、15年の歩みを振り返り、これからの活動のあり方を考えるために、本学の創立記念日（11月29日）に「アフガニスタン女子教育：支援の歩みと現状」と銘打った公開シンポジウムを開催しました。

駐日アフガニスタン・イスラム共和国特命全権大使のバシール・モハバットさま、元文部科学大臣・本学名誉博士の遠山敦子さま、文科省文部科学戦略官の池原充洋さま、独立行政法人国際協力機構JICA研究所副所長の萱嶋信子さまからは、五女子大学の取組みについて、温かいご支援のメッセージを頂きました。

また、五女子大学コンソーシアムのメンバーでいらっしゃる高橋裕子さま（津田塾大学学長）、小野祥子さま（東京女子大学学長）、今岡春樹さま（奈良女子大学学長）、大場昌子さま（日本女子大学学長代行）からご挨拶を頂いた後、この事業の開始時からご協力下さった公益財団法人日本国際教育支援協会理事長・元文部科学省国際統括官の井上正幸さまと、外務省参与・前駐アフガニスタン・イスラム共和国特命全権大使の高橋博史さまにご講演頂きました。

そして、現在の留学生によるプレゼンテーションや、修士号や博士号を取得した修了生たちからのビデオレターの披露がありました。修了生たちが、祖国に戻って、大学教員や研究者として活躍している様子は、これまでこの事業に関わってきた人たちにとって、とても嬉しいことでした。中にはカブール大学の副学長になっている修了生もありました。優れた女性たちが育ち、アフガニスタンの女子教育のために力を発揮していることを知って、胸が熱くなる想いでした。

その後、多くの方々のご協力の下で歩んできたこの15年の活動について、私からご報告させて頂きました。

アフガニスタンでは、長年にわたる他民族による支配の後、1919年に独立を達成しましたが、その後、1973年の共和制への移行、1978年の軍部クーデター、1979年のソ連の軍事介入と1989年のジュネーブ合意に基づくソ連軍の

撤退などの様々な苦難の時期を経て、1992年にムジャーヒディーン軍事政権が成立しました。しかしその後も、各派間の主導権争いによって内戦状態が継続し、1994年頃からイスラムへの回帰を訴えるタリバンが勢力を伸ばすことになりました。2001年9月11日の米国同時多発テロ事件を契機として、米・英等によってアル・カイダとタリバンへの軍事行動が行われ、同年12月にタリバン政権が崩壊して、アフガニスタン各派の代表による和平プロセスに関する合意が達成されました（ボン合意）。そして、国際社会の協力の下、2002年から暫定政府のもとでの国造りが開始されたのです。

しかし、1970年代から続いた紛争によって、アフガニスタンの社会経済システムはほぼ壊滅状態となり、多数の難民が発生するという事態となってしまいました。タリバン支配下では、女性の就学が禁じられ、女子のための学校も閉鎖・破壊されてしまったために、女子教育の再建と普及のためには、学校の建設や女子教員の養成など、多方面にわたる支援が必要でした。

2002年1月に東京で開催された「アフガニスタン復興支援国会議」に向けて日本政府は、難民帰還・再定住促進や地雷除去などの「和平プロセス・国民和解のための支援」を行うことを決定しましたが、それと共に、教育・保健医療・女性の地位向上等の「人づくり支援」を行うことを表明しました。そして、同月に、当時の遠山敦子・文部科学大臣と、本田和子・お茶の水女子大学学長が面談され、本学が、わが国初の女性のための国立高等教育機関として、アフガニスタンの女子教育への支援活動を開始することを約束されました。このとき、私（当時 理学部長）も同席していましたが、本田学長の潔いご判断に圧倒されたことを覚えています。

本田学長は迅速に活動を開始されました。そして、本学だけで担える課題ではないとの判断から、当時親交のあった、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学の五つの女子大学に呼びかけ、翌2月に「アフガニスタン女子教育のための女性教員研修プログラム策定検討委員会」（委員長：藤枝修子・本学教授）を設立し、五つの女子大学が相互に協力・連携してアフガニスタン女子教育を支援することとなりました。さらに、5月にはコンソーシアム協定が結ばれました。そして、国際協力機構（JICA）の協力の下で2002年度から2012年度までに実施された研修には150名以上のアフガニスタン人教員が参加しましたが、その大半は女性教員でした。





2002年5月「五女子大コンソーシアム協定」の締結式にて  
(左から 志村学長、本田学長、湊学長、丹羽学長、後藤学長)

なお、これを機に、本学では、2003年に「開発途上国女子教育協力センター」を設立し(2008年にグローバル協力センターに改組)、以降、教育分野の国際協力のための人材育成・研究・社会実践に努めてきました。

また、指導的女性研究者・高等教育教員の育成を目的として、2003年度から国費留学生の大学院への受入れを開始しました。2016年度末までに、留学生10名を受け入れ、修士号取得者7名(うち、博士号取得者2名)を輩出し、現在も4名の留学生が本学で学んでいます。2012年からは、本学卒業生の故・野々山恵美子さまからご寄附いただいた資金を原資として「アフガニスタン・開発途上国女子教育支援事業野々山基金」を設立し、アフガニスタンからの留学生受け入れや教員研修をはじめとして、開発途上国の女性たちのための教育支援活動を続けています。

15年間にわたって、五女子大学と手を携えて、日本の女子教育の経験を踏まえた教育プログラム作りとその現地での普及と改善、指導的女性教育者(大学教員、教員養成学校教員、中学校や高等学校の校長・教頭等)のための研修、若手を含む女子教員の研修、理数科教員の研修、留学生受け入れなど、様々な活動を展開して来ましたが、その他にも、「心のケア・マニュアル・ガイドライン」作成とカブール大学や本学における女性指導者・女性教員等への授業、大学教員や公務員の招聘、アフガニスタンの現状に関する報告会・講演会・シンポジウムの開催、健康教育や理数科教育のための教材開発や漢-ダリー科学用語辞典の作成、NGOとの連携による絵本の作成と図書館活動といった、独自の事業も実施して来ました。

2002年からアフガニスタン教育省は「学校に戻ろう」キャンペーンを進めてきました。その下で男女の就学率は改善しましたが、女性の識字率は低く、未だ読み書きのできる成人女性は5人に1人以下とのことです。また、治安の悪化や反政府武装勢力の攻撃によって存続が脅かされている学校も現在も多数あるとのことで、アフガニスタンの教育の発展のためになすべきことはまだまだたくさん残されています。

本田元学長が、15周年記念行事に向けて素晴らしいメッセージをお寄せ下さったのですが、その中で、第一回の来訪者の挨拶に触れていらっしゃる部分を抜粋して以下に記します。全文は、記念誌に掲載してありますが、またの機会に、皆さんにも読んで頂きたいと思っています。

\*\*\*\*\*

全身を覆う黒い衣裳から、顔だけをあらわにし、その顔に希望の光を漲らせつつ、若いその女性は発言した。「私たちの祖国は、戦乱で荒廃した。私たち女性は、いま、日本に、教育のモデルを求めている。しかし、いつの日にか、私たちが祖国の教育をたて直し、女性のための高等教育も完備したなら、日本の方たちにも見学に訪れてほしい。その日のくことを祈っている」と…。

あれから15年が経過した。アフガニスタンは、いま、どうなっているのだろうか。彼女たちの「学ぶ意欲」が、衰えることなく健やかであってほしいと願っている。

\*\*\*\*\*

今回のシンポジウムは、私たちが「望めば学ぶことができる」恵まれた環境にあることを、深く自覚させるものともなりました。この自覚の下に、平和な社会においてこそ女性達の学びが実現できること、女性達が学ぶことで社会に多様な考え方が生まれ、人々の幸せに資する活動が推進できることを、再度認識することができました。そして、「日本の女子大学」が、学ぶ機会や権利を奪われている女性たちの教育のために協力してきたことが、実際に成果を挙げていることを知ることができたのも、大きな喜びでした。

これからも本学は「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションの下、五女子大学コンソーシアムや様々な関係諸機関との連携の下で、世界中の女性たちの学びを支援していきたいと考えています。今後とも、学生の皆さん、教職員の皆さんのご協力をお願い致します。

お茶の水女子大学長 室伏 きみ子

# 学長からのメッセージ

# 学生のアクティビティ

## 舞踊教育学 コース



毎回幅広く本学の学生の活動を紹介する「学生のアクティビティ」  
今回は、昨年の全日本高校・大学ダンスフェスティバルで、  
最優秀賞である「文部科学大臣賞」を受賞した舞踊教育学コースの学生に、  
活動内容を紹介していただきます。

文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コースは、国立大学で唯一、舞踊を専門的に学ぶことのできる大変珍しいコースです。モダンダンスやコンテンポラリーダンスを中心に、理論と実践の両面からダンスを追求していきます。1学年16人と少人数、入学の時点では狭き門です。しかし、入学後は仲間とともに毎日ダンス漬けの日々。様々な側面から舞踊について自由に学ぶことができます。座学はもちろん、実技の授業も充実しており、毎年8月には全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸への参加、4月には1年間の集大成として創作舞踊公演を行っています。また、海外研修への参加機会もあり、7月にはフランスのCNDへCampingの参加、11月には協定校である、韓国芸術総合学校舞踊院の卒業公演での作品上演など、様々なチャンスに恵まれています。

### 全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸

女子体育連盟と神戸市及び神戸市教育委員会が主催する全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸は、創作ダンスの甲子園とも言われている全国大会です。毎年8月に日本各地から多くの高校・大学が神戸に集まり、それぞれの作品を上演し創作の完成度を競い合います。

舞踊教育学コースも毎年この大会の創作コンクール部門に出場しており、これまでも数々の賞を受賞してきました。大会出場のメンバーは、「舞踊上演法実習」の授業履修者で、1～3年生例年20名程が4月から8月の大会まで、作品創作・練習を行っています。授業時間のほかに、放課後も練習をします。

特に6月以降はほぼ毎日、平日は17時から21時まで、土日は13時から18時まで練習しています。

2017年にこの大会は開催30回目を迎えました。記念大会となった今回、大学創作コンクール部門は全国から29校が出場し、各大学が力作を出品、かなりの接戦となりました。

お茶大の今年の作品「女たちの狂詩曲」は、3年生6人が中心となり創作した作品です。テーマは「ジェンダー」。ストッキングを用いて女性の性差別や人権問題をテーマに作品創作をしました。わたしたち女子大生にしかできないことをやりたい、社会に訴えかけるような作品を創りたいと、毎日朝から晩まで話し合い、創っては壊しを繰り返し、先生やコーチからたくさんご指導をいただいて完成した作品です。



第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸の様子





11月韓国芸術総合学校舞踊院にて



日本舞踊の授業

お茶大はジェンダー研究が盛んです。ジェンダーに関する授業が多いので、入学してこれまで、ジェンダーに触れる機会がたくさんありました。これは、お茶大という女子大ならではの環境だなと感じ、お茶大ではなく共学の大学だったらなかなか考えない分野に、あえて挑戦を試みました。テーマがかなり繊細なだけに、そこから生み出されるエネルギーは強烈でした。1～3年生計21人で何十ものシーンや振付を試し、小道具も自分たちで制

作し、衣装も何パターンも作りました。結果、文部科学大臣賞を受賞。創作作品の完成度の高さに対して贈られる最高賞で、お茶大としては12年ぶりに全国1位を頂くことができました。それまでの創作プロセスが実を結び、このような高評価を頂けたこと、また、恵まれた環境のもとで、創作だけでなく様々なことを勉強できたことを心から嬉しく思います。

## 創作舞踊公演

毎年4月に、舞踊教育学コースは創作舞踊公演を行っています。これは、後期の「舞踊創作法実習」という授業の集大成として、各学年が創作した作品を発表します。この創作舞踊公演は舞踊教育学コースの一大イベントで、まず入学してすぐ、新1年生はこの公演の表方スタッフとして携わります。また、新4年生にとってはこの公演は卒業公演であり、作品創作のみならず、公演に至るまでの制作も学生主体で行います。出演者全員が、より良い公演にするために、自分たちがやりたいこと・伝えたいことを観客に伝えるためにはどうしたら良いのかを試行錯誤しながら、公演当日まで様々な工夫を積み上げていきます。作品創作にマニュアルはありません。またそれに伴う制作業務もいかにクリエイティブに考え、実行できるかが鍵となっています。そのため、仲間とぶつかることも頻繁にあります。本気で考え本気で意見を出すことは、時間もストレスもかかりますが、この機会が自分たちの成長に大きく繋がっているのだと感じます。他大学では絶対にできないことだから

こそ、みんな全力で取り組んでいます。

舞踊教育学コースの学生がパワフルでエネルギッシュな

のは、何かを創り上げることにかける熱意が物凄いからだと思います。次の創作舞踊公演に向けて夏休み明けから準備を重ねてきました。そんな学生たちのダンスを、熱意を、ぜひ観て感じて頂きたいなと思います。熱心なご指導をしてくださる先生方をはじめ、助手室アカデミックアシスタントの方々、先輩方の多大なご協力のもと、今回の公演が成功につながるよう、精進していきたいと思っています。

文責：文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コース 3年 内藤 治水



第44回創作舞踊公演の様子

### 公演詳細：第45回お茶の水女子大学創作舞踊公演

<日 時> 2018年4月27日(金) 開場 18:30 開演 19:00

<場 所> なかのZERO 大ホール  
JRまたは東京メトロ東西線中野駅南口から徒歩8分

<予定プログラム> 各学年群舞・4年生小作品・委嘱作品・ゲスト招聘作品  
AJDF文部科学大臣賞受賞作品「わたちの狂詩曲」他

<チケット予約 問い合わせ> MAIL: ochadance2018@gmail.com  
TEL: 03-5978-5271 (舞踊教育学コース助手室)

※メールでのチケットご予約の際は、お名前とご希望枚数をご記入の上、件名をチケット予約とし、上記のアドレスにお願いいたします。

## 学生のアクティビティ

# 教員紹介

ご自身の研究や教育観を語っていただく「教員紹介」。  
今回は今年度4月に着任された基幹研究院人文科学系准教授の小松祐子（さちこ）先生  
にお話を伺います。



*Komatsu Sachiko*  
小松 祐子

## フランス語圏の 魅力を伝えたいです。

### Q ご経歴についてお聞かせください。

はい、父が転勤族でしたので子どもの頃には何度も引越しを経験し、小学校は長崎、中学校は名古屋、高校は金沢でした。高校時代の国語と数学の先生がお茶大のご出身で、その影響でお茶大を志望しました。小さいころから本を読むのが大好きで、図書館に通ってはわからないままにいろいろな本を読んでいたのですが、とくにフランス文学が面白く思い、大学入学時にフランス語フランス文学を専攻しました。

大学ではじめてフランス語を学び、大好きになりました。丁寧な指導をしてくださった先生方から感謝をしています。大学院に進みさらに学びを深めたいと思いましたが、私の学生時代はまだお茶大の仏文には大学院がありませんでしたので、慶應義塾大学の修士課程、博士課程に進学しました。日本では最初はマルセル・ブルースト、その後ナタリー・サロートという作家の心理描写のメタファーに着かれ研究していました。大学院時代にフランスへ計7年も留学しました。留学中に、将来フランス語を教えるときに役立つだろうと考えて、仏文学と同時に言語文化教育学の大学院にも登録しました。仏文学、言語文化教育学ともに博士課程DEAという資格を取って日本に戻り、いくつかの大学でフランス語の非常勤講師を務めた後、筑波大学で13年間フランス語や仏語圏文化の教育を担当しました。そしてこの春から晴れて母校お茶の水女子大学に迎えていただくことができました。

### Q どのような研究をなさっているのですか。

現在はフランス語教育に関する研究とフランス語圏の言語文化(フランコフォニー)に関する研究を行っています。フランス語教育については、最近はとくに教育の文化コンテンツや言語教育政策に関心をもち研究しています。というも、人々の関

心が英語習得に集中する傾向が強いなかで、フランス語教育は何を目指すべきか、フランス語学習の意義は何かを問うことがとても重要であると思っています。フランス語を通じ多様なフランス語圏文化に触れることで、複眼的な視点からの思考力を身につけられるような言語教育を目指しています。

筑波大学に就職してすぐの夏にケベック州政府の招聘で1か月間モンレアルに研修に行く機会がありました。そこでフランスとは異なるフランス語圏の魅力を見つけたのです。ケベックは北米の圧倒的な英語環境のなか、また大量の移民を迎えるなかで、フランス語社会を保つために、絶え間ない努力を重ねています。ケベックの辿ってきた歴史や現状に魅了され、言語文化政策について調べてきました。ケベックの間文化主義(インターカルチュラリズム)という社会統合アプローチは、カナダの多文化主義とは全く異なるもので、日本のような基調文化のある国がグローバル化を迎えるにあたって大変参考になるものです。

さらに最近では、ケベック以外の北米のフランス語マイリティ共同体の状況や、それらの共同体とケベックとの関係についても研究を行っています。日本ではほとんど知られていないフランス語圏の言語状況について調べることが面白くて、すっぴのめりこんでいます。北米以外のフランス語圏にも興味があり、フランス語をめぐる言語問題が深刻なベルギーにも関心を寄せています。

### Q ご主人はフランスの方でいらっしゃるのか。お子様方はバイリンガルですか。

はい、夫はフランス人でパリ留学中に図書館で出会いました。私が帰国するときに、ちょうど彼も仕事で来日しましてその後結婚し、今は7歳のわんぱく盛りの男女の双子がいます。子どもたちは日本の小学校に通っていますが、家庭ではフランス語で過ごしていて、順調にバイリンガルに育っ

ています。フランス語の読み書きを教えるのには苦勞していますが、語彙は確実に増えていて、先日娘が「へその緒」というフランス語の単語を知っていたのに驚きました。

### Q お茶大に戻っていらして、お茶大生にどのような印象を持たれましたか。また学生のみなさんへのメッセージをお願いします。

私が学生のころと学内の様子がほとんど変わっていないのが嬉しいです。図書館前の池の亀もお茶猫も昔のままで、ほのぼのとした雰囲気がこの大学の魅力だと思います。そしてお茶大生はあいかわらずとても真面目です。前期末には“ふつうに”フランス語の試験問題を作ったところ、平均点が高くなりすぎてうれしい悲鳴を上げることになりました。とても教え甲斐がありますね。

お茶大生の皆さんにはぜひ好奇心旺盛に、大学時代にいろいろな経験をさせていただきたいです。たくさん本を読み、旅にも出ましょう。私は大学2年が終わった春休みにフランスに1か月の語学研修に行ったことが将来を決める経験になったと思っています。フランス語と一生関わっていきたくて思ったのです。研修後に一人でフランス国内を旅したのが、今でもよい思い出です。ぜひ皆さんも様々なことに挑戦して、自分のこだわりを見つけてください。

文責：基幹研究院人文科学系准教授 山腰 京子





# 卒業生紹介

## 経験を力に! ~挑戦する勇気を~



*Matsushima Mika*  
**松嶋 美佳**

日本ペイント・  
オートモーティブコーティングス株式会社

### 愛知県出身

2007年3月 お茶の水女子大学 理学部 化学科 卒業  
2009年3月 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 修了  
2009年4月 日本ペイント株式会社 入社  
寝屋川研究所勤務  
2015年4月~ 日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社 出向  
枚方本社勤務

### 化学を学んで

大学・大学院では理学部・化学科で、中国に生息するキク科植物を対象に染色体・DNA・化学成分分析によってその多様性を解明する共同研究を行ってきました。採集したサンプルの根から抽出した抽出液から化合物の単離・精製を行い、得られた化合物のNMR、MS、IRなどの測定を行い構造決定を行っていました。新規化合物の構造特定はたやすいことではありませんでしたが、地道に分析を行っていくことで構造決定を行うことが出来、共同で論文投稿まで行うことが出来ました。私はこの研究を通じて、研究全体から結果から考えられることをしっかり論理的に考察することを学び、スキル面からは分析機器を多く用いているので、分析機器を使いこなし、さらには得られてきたデータを的確に読み取れることを学びました。これらの研究から、「社会の中で化学に携わる仕事をしたい」と思い、化学メーカーの中から社員の方の雰囲気に着かれて、今の会社に就職しました。

### 分析の仕事

当社は1881年に創業した総合塗料メーカーで、自動車用塗料・工業用塗料・汎用塗料・船舶用塗料・表面処理などの事業を行っております。就職して最初に配属されたのは、R&Dの分析グループでした。全部門の塗料に関する分析を行う部署で、塗料開発において必要な分析から、顧客で発生したクレーム分析まで行いました。塗料というのは樹脂、顔料、溶剤、添加剤などが混ざった混合物です。さらにそれがお客様のところまでどのように塗装されるかによって、塗料のパフォーマンスは大きく変わってきます。そのような複雑な塗料・塗膜を分析するのは容易ではありません。最初は塗料の知識もなく、分析結果の考察も自分一人では出来ずに悶々とすることもありましたが、過去の膨大な知見や先輩社員の方々のご指導のおかげで、3年目の時には他部署と協働したテーマにおいて、その一員として全社の技術賞をいただくことが出来ました。ここでは全部門の塗料分析を行うため、多くの方と

協働で分析を行うことが多々ありました。学生時代に培った誰とでも話が出来るコミュニケーション力を生かし、様々な部門の方と顔見知りになれたことも自分の財産となりました。

### グローバル化

現在、多くの日本企業がグローバル化の真只中にあるのではないかと思います。当社も例外ではなく、ここ数年で急激な変化を迎えています。その中で2017年度より海外の拠点に3か月滞り、海外の仕事を学ぶという短期留学制度が始まりました。私は応募要件から外れている項目があるのにも関わらず、自ら手を挙げて応募し、フランスの関連会社に行く機会を得ることが出来ました。そこで欧州自動車メーカー向けの塗料開発を行いました。これまでの日系自動車メーカーの視点、仕事のやり方、働き方も異なり、最初は戸惑うこともありましたが、現地の方々も非常に親切で多くのことを学ぶことが出来、今後の自分の大きな糧となりました。女性活躍の視点では、フランスで自動車メーカーのカンファレンスに参加した際に、発表者の半分が女性であり、女性の方も積極的に自信を持って質問をしていたことが印象的でした。日本の場合、同様のカンファレンスでは男性の方がほとんどだと思います。日本の女性ももっと自信を持って、そういった場に参加していくことが必要だと思いました。来年度は欧州自動車メーカーをターゲットにした塗料開発チームへ異動することになり、この経験を生かしてお客様に満足していただける塗料開発に尽力していきたいと思っています。

### 学生へのメッセージ

これまで塗料・塗膜分析、現象解明などを行ってきた中で、大学時代の研究テーマや知識がそのまま活かされたかということ、そうではありません。しかし得られてきたデータを的確に読み取り、結果から考えられることをしっかり論理的に考察するというプロセスは今も活かしていると思います。ですから、学生さんには今の研究を一生懸命、真剣に取り組んで、色々な考え方をしてほしいと思います。その姿勢や考え方は社会人になっても必ず役立ちます。嫌なことや想定していない事態に出会った際にも、簡単に逃げ出さずに色々な考え方をして乗りきってほしいと思います。人間関係で悩むこともありますが、学生時代は様々な考え方や価値観を持つ人に出会うことが多く、人間関係を磨くいい時だと思いますので、たくさんの人に出会ってたくさんの経験をするといいと思います。近年、女性活躍

躍が叫ばれる中で突然思いがけない機会に遭遇することもあると思いますが、そんな時はぜひ挑戦してみてください。私は「経験は能力に転換される」と信じて、新しいことが経験できる機会は積極的に挑戦するようにしています。(例えば仕事の発表などの機会以外にも組合活動や趣味の旅行、フットサル、茶道、華道など)ぜひみなさんも何事も前向きに挑戦してみてください。そして最後に友達を大事にしてください。大学時代の友達はどんな時も自分の味方になってくれる一生の友達になること間違いなしです。

フランス関連会社メンバー



文責：基幹研究院自然科学系准教授 矢島 知子

### わたしのオフタイム

休みの日は社内外の仲間とフットサルを楽しんでストレス解消をしています。また大学時代の友達と会って話すことも好きで、毎回みんなの考え方や仕事ぶりに刺激をもらっています。



# 附属学校園からのお知らせ

## 附属幼稚園便り



お餅つきの様子

附属幼稚園では、園庭にある木々の実りを子ども自身が取って味わったり、年長児が畑で育てた野菜を収穫調理して年少児に振る舞ったり、身近な自然と関わる中での食を大切にしています。ここでは「冬」の行事を中心に、子どもたちが季節を感じ、食を楽しむ姿を紹介していきます。



つきたてのお餅「ちょっと甘い」「のびる〜!」

### お餅つき

11月最後の日、園庭に竈(かまど)が設置され、煙が立ち上り、薪の燃える匂いが漂いました。幼稚園では、臼と杵で、昔ながらのお餅つきをしています。

いつもと違う園庭の様子に、子どもたちは「何が始まるのだろう?」とワクワクしながら集まってきます。しばらくすると、三段重ねのせいろからシュンシュンと湯気が上がりはじめます。

この日はたくさんの保護者が、かまど、うす、せいろ、味付け、子ども、総括の6グループに分かれて大活躍です! 蒸し上がったもち米

を臼に移すと、まずは捏ねる作業、つき手ボランティアさんの杵の音が響き始めると、おもちつきの雰囲気はいよいよ盛り上がり、子どもたちや先生から「ヨイショ!」のかけ声がかかります。

年中児は小さな杵で餅つき体験、年長児になると、ひと臼を最初から搗きあげまで体験し、ホカホカのお餅をグーンと伸ばしてみながら頬張ります。年齢に応じて、体験する内容も少しずつ変えていきます。

お昼は海苔ときな粉味のお餅をいただきます。事前に「お餅は食べたことがありません」と心配されていても、当日は教師も驚くほど食べてしまうことも珍しくありません。

お餅が搗きあがっていくプロセスを目の当たりにし、自分がついたお餅を食べられることは、子どもたちにとってかけがえのない体験になります。竈から漂う匂い、お餅の温かさ柔らかさ、体を通した経験はきっと心に残り、お正月のお餅も喜んで食べる姿につながるのではないのでしょうか。

### 春を祝う会

3学期はじめには「春を祝う会」を催しています。獅子舞と和太鼓や笛の音やリズム、お正月の風物詩である伝統行事を、師走のお餅つきを体験した子どもたち楽しんで欲しいと考え、数年前から行っています。この



春を祝う会：教師も参加して和太鼓を叩く



和太鼓：子どもたちも和太鼓を叩いてみる



## 附属学校園での出来事 (2017年10月～12月)

### 【いずみナーサリー】

#### 10月

- 避難訓練 (火災)
- 親子で遊ぼう会

#### 11月

- いずみナーサリー同窓会
- COSMOS・ECCELL 共催企画「子どもの世界を見てみよう」
- 個人面談
- 避難訓練

### 【附属幼稚園】

#### 10月

- 4歳児遠足 (飛鳥山公園)
- 中西部アフリカ幼児教育研修会 一日研修
- 運動会予行
- 避難訓練
- 誕生会
- 運動会 (平日開催)
- さつまいも掘り
- 3歳児遠足 (小石川植物園)
- 4歳児保護者子育て懇談会  
講師 スクールカウンセラー 永里先生
- 4歳児親子で遊ぶ日

#### 11月

- あきのラッキーさつまいもまつり
- 避難訓練
- 誕生会
- 創立記念の集い
- もちつき

#### 12月

- 終業式

### 【附属小学校】

#### 10月

- 衣がえ
- 避難訓練
- 防災訓練 (教職員, 5年)
- 学校説明会
- 中西部アフリカ幼児教育研修会参観
- かがみ会パザー
- サツマイモ掘り (3, 4年)
- 秋まつり (1年)
- 留学生との交流会 (6年)

#### 11月

- 校外学習 (4年: 課題別)
- 避難訓練
- 秋まつり (2年)
- 音楽会
- ダイコン掘り (2, 5年)
- 校外学習 (2年: 清水公園)

#### 12月

- 保護者会 (各学年)
- 終業式

#### 12月

- クリスマスあそび
- 避難訓練

### 【附属中学校】

#### 10月

- 前期期末テスト
- 前期終業式
- 秋休み
- 後期始業式
- 身体測定
- 保護者参観週間

#### 11月

- 生徒会選挙
- 1年郊外園 (サツマイモ収穫)
- 任命式
- 避難訓練
- 中間テスト (3年)
- 創立記念日

#### 12月

- 中間テスト (1, 2年)
- 創立70周年記念式典、記念祝賀会
- マラソン大会

### 【附属高校】

#### 10月

- 自治会総会・選挙
- 2学期中間考査
- SGH台湾研修
- 3年学力テスト
- お茶大・筑波大附属高校合同キャリア講演会
- 1年農場実習 (サツマイモの収穫)

#### 11月

- ダンスコンクール
- 3年学力テスト
- 第2回保護者授業参観
- 福島県教育旅行モニターツアー
- 全日本高校模擬国連大会
- 避難訓練
- 1年進路講演会
- SGH高校生全国フォーラム
- 創立記念日

#### 12月

- 2学期期末考査
- GPSアカデミック
- お茶大キャリアガイダンス
- 1年 Google 訪問
- SGH「持続可能な社会の探究」説明会
- SGH 自国文化理解講座 1年歌舞伎、2年文楽
- 東工大ウィンターレクチャー
- 終業式



春を祝う会  
「獅子舞、ちょっと怖い!!」



僕たちが作った獅子

日は保護者や弟妹も共に楽しめる時間になっています。和太鼓に合わせて体が動き出す子どもたち、中には獅子舞が少し怖くて涙ぐむ子どももいます。見て聴くだけでなく、子どもたちが和太鼓を叩くワークショップも組み込んでいます。

### おしるこやさん

1月には、さらにお楽しみがあります。アトリエという多目的室が、調理と「おしるこやさん」の部屋に変身し、年長児が餅を焼き、おしるこを作ってご馳走します。子ども達が「おしるこやさん」「おしるこパーティー」など、和紙に書いた張り紙が風情を醸します。

もう一つ特筆しておきたいこととして、お餅つきをすると「おもちゃやさん」をやってみたくなる、獅子舞を見ると「手作り獅子」を作るなどの子ども達の姿があります。嬉しい体験とつなげて自分達で発想し、遊びにして楽しむことも大切な学びだと、私たちは考えます。

四季のある場所で暮らすからこそ感じられる季節の移り変わり、その中で引き継がれている行事を、幼稚園生活の中で子ども達に存分に味わって欲しいものです。

本物に触れ、体を通した体験を、保護者も巻き込みながら共に積み重ねる中で、これからも子ども達の育ちを後押ししていきたいと考えています。



おしるこおいしいよ

## 附属学校園からのお知らせ



# キャンパス点描

## ノーベル化学賞受賞者 ジャン＝ピエール・ソヴァージュ教授の特別講義を開催しました



特別講義を行うソヴァージュ教授



会場の様子

お茶の水女子大学と仏ストラスブール大学は、今年、大学間協定締結 15 周年を迎えました。この度記念行事の一環として、2016 年に「分子マシンの設計と合成」でノーベル化学賞を受賞されたストラスブール大学 ジャン＝ピエール・ソヴァージュ名誉教授による特別講義「Molecular Machines: from Biology to Artificial Systems」を 11 月 12 日（日）に開催しました。特別講義の開催に先立ち、室伏きみ子学長より、お茶の水女子大学学長特別招聘教授の称号をソヴァージュ教授に授与させていただきました。

今回の特別講義の参加者総数は 136 名で、このうち、小中高生は 44 名でした。特別講義は若い世代の人たちにもわかりやすく配慮されたもので、分子マシンのコンピュータグラフィックスを盛り込んだ数々のスライドとその説明から、心躍るような化学の楽しさが伝わりました。共にノーベル賞を受賞された共同研究者たちとの、良好なコラボレーションを築いてきたお話もとても印象的でした。ご講演の後に、感謝の意をこめて本学附属中学校お

よび高等学校の代表生徒からソヴァージュ教授ご夫妻に、花束を贈呈しました。フロアからの活発な質疑応答も行われ、中学生や高校生からの質問もあり、予定時間を少し超えてしまうほどの盛会のうちに、特別講義が終了しました。



学長特別招聘教授称号授与

## お茶の水女子大学附属中学校が創立七十周年記念式典を挙行了しました



祝辞を述べる瀧本審議員

お茶の水女子大学附属中学校は、1882 年東京女子師範学校附属高等女学校の設置に端を発し、1947 年、六・三・三の新学制実施に伴い中学校と高等学校に分離し男女共学の中学校として発足してから、今年で創立七十周年を迎えました。

これを記念して、12 月 2 日（土）に、文部科学省大臣官房・瀧本寛審議員をはじめ多数の来賓を迎え、室伏きみ子学長、加賀美常美代学長などの大学及び附属学校関係者、卒業生の出席のもと、大学講堂にて記念式典が開催されました。

在校生 353 名とその保護者も参加した式典では、来賓祝辞と代表生徒挨拶、卒業生 6 名による記念シンポジウム、生徒有志による和太鼓の演奏、



## 五女子大学コンソーシアム協定を締結し、 アフガニスタン女子教育支援 15 周年記念シンポジウムを 開催しました

11月29日(水)、お茶の水女子大学(室伏きみ子学長)、津田塾大学(高橋裕子学長)、東京女子大学(小野祥子学長)、奈良女子大学(今岡春樹学長)、日本女子大学(大場昌子学長代行)の五女子大学は、開発途上国の女子教育に関する支援事業及び女子教育の発展に関わる事業を実施するため、コンソーシアム協定を継続して締結し、各大学長出席のもと、調印式を行いました。

本協定に基づいて2002年よりアフガニスタン女子教育支援を実施しており、2006年からは支援の対象を全ての開発途上国へと拡大し、五女子大学が連携して様々な活動を行っています。

同日にはコンソーシアム結成15周年を記念して「アフガニスタン女子教育支援15周年記念シンポジウム」が開催され、多くの参加者を得て盛大に執り行われました。

五女子大学の学長をはじめ、パシール・モハバット駐日アフガニスタン・イスラム共和国特命全権大使、池原充洋文部科学省大臣官房文部科学戦略官、萱島信子独立行政法人国際協力機構JICA



調印式の様子

研究所副所長などの来賓、招待講演者の井上正幸氏(公益財団法人日本国際教育支援協会理事長)及び高橋博史氏(外務省参与・大使)から、五女子大学による女子教育支援の必要性や継続することの重要性、今後の活動への期待が述べられました。

アフガニスタンからの女子留学生によるプレゼンテーションや卒業生からのビデオ・メッセージでは、アフガニスタンの基礎教育、高等教育の現状についての最新の情報が報告されました。

最後に、室伏きみ子学長から「アフガニスタンのことを忘れていない、女子教育の復興と発展を支えたい」との決意が語られました。



シンポジウムの様子

ダンス部の演技、書道部のパフォーマンスなどの発表、卒業生の安藤政輝氏による生田流の箏曲の記念演奏が行われました。大学の歴史資料館では、この日に合わせて「附属中学校創立七十周年記念展示」が開催され、創立当時のアルバムや写真などの展示から当時の学校生活の様子が偲ばれました。

午後の祝賀会は、会場を附属中学校アリーナに移し、歴代校長、教頭、副校長、旧教職員、教諭、同窓生、在校生保護者などが一堂に会して終始和やかに行われました。卒業生の思い出話から、附属中学校の教育の基盤である「自主・自律・広い視野」の精神が七十年という歴史の中でしっかりと継承されてきたことを再確認することができました。



代表生徒挨拶





写真：写真部

お茶の水女子大学学报 第 255 号

▽発行日：2018 年 2 月 13 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学  
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、  
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。